

令和7年度開講科目 講義シラバス

理学療法学科

下関看護リハビリテーション学校

学校法人 巨樹の会		下関リハビリテーション学校		理学療法学科		昼間コース		カリキュラム				
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2	
			自然科学	統計学				30			30	2
		コミュニケーション学		情報処理				30			30	2
			物理学	30							30	2
			基礎教養	30							30	2
			対人関係演習 I	30							30	2
	対人関係演習 II		30						30	2		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学 I	30						30	2	
			解剖学 II		30					30	2	
		生理学	生理学 I	30							30	2
			生理学 II		30						30	2
		運動学	運動学 I	60							60	4
			運動学 II		30						30	2
	運動学演習 I		30							30	2	
	運動学演習 II			30						30	2	
	人間発達学	人間発達学		30						30	2	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学 I	30							30	2
			リハビリテーション基礎医学 II		30						30	2
		臨床医学総論	医学概論	30							30	2
			病理学概論			30					30	2
		臨床医学各論	整形外科			30					30	2
			内科学			30					30	2
			神経内科学			30					30	2
			臨床心理学		30						30	2
		精神医学		30						30	2	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法 I	30						30	2	
			リハビリテーションと理学療法 II	30						30	2	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学 I	30						30	1	
			基礎理学療法学 II		30					30	1	
			生活機能演習			30					30	1
		臨床運動学	臨床運動学演習 I		30						30	2
	臨床運動学演習 II				30					30	2	
	理学療法管理学	理学療法管理	理学療法管理学					30		30	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学	基礎評価学演習 I	60							60	2
			基礎評価学演習 II		60						60	2
			基礎評価学演習 III			60					60	2
			臨床評価学演習 I	30							30	1
			臨床評価学演習 II		30						30	1
	理学療法治療学	運動療法学	運動療法学		60						60	2
			物理療法学		30						30	1
		日常生活活動学	日常生活活動学演習 I			30					30	1
			日常生活活動学演習 II				30				30	1
		義肢装具学	義肢学			30					30	1
			装具学				30				30	1
		疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学 I			60					60	2
			中枢神経疾患の理学療法学 II				60				60	2
			運動器疾患の理学療法学 I			60					60	2
			運動器疾患の理学療法学 II				60				60	2
			内部障害系疾患の理学療法学 I			60					60	2
			内部障害系疾患の理学療法学 II				60				60	2
			小児疾患の理学療法学				30				30	1
			理学療法学技術演習 I			60					60	2
	理学療法学技術演習 II				60				60	2		
	理学療法総合学習	理学療法学総合学習 I							60	60	2	
		理学療法学総合学習 II							60	60	2	
		理学療法学総合学習 III							60	60	2	
	地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学				30			30	2	
			地域理学療法学演習				30			30	2	
	臨床実習	臨床実習	臨床実習 I		45						45	1
			臨床実習 II			45					45	1
			臨床実習 III					360			360	8
			臨床実習 IV					450			450	10
	* 基礎分野：講義15～30時間1単位				基礎分野	120	30	0	60	0	0	210
* 専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位				専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42
* 専門分野：同上				専門分野	120	240	360	450	30	180	1380	51
* 臨床実習：40～45時間1単位				実習	0	45	0	45	810	0	900	20
				前期・後期小計	510	555	480	555	840	180	3120	127
				前後期合計	1065		1035		1020			

I . 基礎分野

講義科目	心理学		
担当講師	原口 淑子		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	①人の行動と心理を理解するための基本的な知識と考え方を学ぶ。 ②心理学的見方を身につけ、援助の対象となる人の心理や行動を理解する糸口を見つけられるようになることを狙いとする。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	心理学とは何か？	①オリエンテーション。 ②心理学とはどのような学問なのか理解する。	
2	感覚と知覚	①感覚と知覚を理解する。 ②知覚の仕組みと働きについて理解する。	
3	記憶	①記憶のメカニズムを理解する。 ②記憶の分類と種類を理解する。 ③忘却の理論を理解する。	
4	知能	①知能とは何かを理解する。 ②知能検査方法を理解する。	
5	学習	①古典的条件づけの基本原則を理解する。 ②オペラント条件づけを理解する。 ③認知学習を理解する。	
6	感情	①感情とは何かを理解する。 ②感情のメカニズムを理解する。 ③感情の3要素について理解する。	
7	動機付け	①動機づけの役割、種類を理解する。 ②葛藤と欲求不満を理解する。 ③動機づけの理論を理解する。	
8	性格	①性格の形成を理解する。 ②性格の理論を理解する。 ③性格の測定方法を理解する。	
9	防衛機制	①フロイトの構造論を理解する。 ②防衛機制とは何かを理解する。 ③主な防衛機制の種類を理解する。	
10	社会と集団	①社会的認知を理解する。 ②態度と説得的コミュニケーションを理解する。 ③集団の機能とリーダーシップの理論を理解する。	
11	発達1	①発達の概要を理解する。 ②主要な発達理論を理解する。	
12	発達2	①各発達時期の特徴と課題を理解する。	
13	医療と対人援助	①対人援助の条件や機能を理解する。 ②患者の心理特性を理解する。 ③死の受容過程を理解する。	④援助者のバーンアウトを理解する。
14	ストレスマネジメント	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスマネジメントの方法を理解する。	
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 心理学	山村豊 高橋一公	医学書院
参考図書等	エッセンシャルズ心理学 心理学的素養の学び	二宮勝己他	福村出版
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人の気持ちを理解、支援していくための基礎科目であり、国家試験にも出る重要な科目です。内容も広いので、授業前に該当する教科書の章を読んでおくと理解がより深まります。興味を持って主体的に学習してください。		

講義科目	統計学			
担当講師	山崎 圭		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	2
教育目標	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション	①統計の必要性 ②4つの尺度 ③研究デザイン		
2	データのばらつき	①分散 ②基準値 ③偏差値		
3	正規分布	①母集団と標本 ②正規分布 ③標準正規分布		
4	割合の検定	①有意水準と仮説検定 ②二項分布の正規近似 ③演習問題		
5	t 検定	①演習問題 ② t 値（t 統計量） ③t 分表の見方		
6	演習①	1回から 5 回までの確認テストまたはレポート		
7	演習①解説	①演習問題の解説 ②グループで復習		
8	カイ 2 乗分布	①観測度数と期待度数 ②カイ 2 乗統計量 ③カイ 2 乗分布表		
9	区間推定	①検定と推定 ②標本平均の分布 ③95%信頼区間		
10	感度と特異度	①クロス集計 ②仮説検定の誤り ③感度と特異度		
11	相関	①共分散 ②相関係数 r ③母相関係数の検定		
12	回帰	①回帰直線の求め方 ②回帰曲線を求める公式 ③練習問題		
13	演習②	7回から 11 回までの確認テストまたはレポート		
14	演習②解説	①演習問題の解説 ②レポート提出		
15	まとめ	①学習の振り返り ②国家試験に向けて		
教科書	書籍名	著者	出版社	
	すぐできる！リハビリテーション統計	山本澄子・谷浩明	南江堂	
参考図書等				
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を实践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくリハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。			

講義科目	情報処理		
担当講師	松尾 育子		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数 2
教育目標	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	オリエンテーション (情報システムとは)	①情報システムの仕組みを理解する。 ②クラウドのシステムと使い方を理解する。 または、クラウドコンピューティングのシステムと使い方を理解する。	
2	情報セキュリティ (情報モラル、著作権、ネットワークを利用する上での注意点)	①情報セキュリティについて理解する。 ②SNSリテラシーを理解する。	
3	Windowsの基本操作	①OSについて理解できる。 ②ファイル管理操作ができる。	
4	Word（日本語入力システム、文字の入力、特殊な入力方法）	①正確な文字入力ができる。	
5	Word（文章の入力、保存、印刷設定）	①Wordを用いて文章を入力し、印刷の詳細な設定ができる。	
6	Word（編集、表作成、イラスト挿入）	①Wordを用いてビジネス文書を作成できる。	
7	Excel（データ入力、ワークシート編集）	①表計算ソフトの基本的な操作ができる。	
8	Excel（計算式、グラフ）	①表計算ソフトを用いて計算式を自分で組み立て、それを元にグラフを作成することができる。	
9	Excel（グラフ、関数）	①表計算ソフトを用いて関数を使用し、データ分析ができる。 ②グラフの詳細設定ができる。	
10	Excel（関数）	①表計算ソフトを用いて複雑な関数を使用し、データの加工ができる。	
11	Excel（データベース機能）	①表計算ソフトを用いて大量のデータを効率的に管理できる。	
12	PowerPoint（プレゼンテーションとは、プレゼンテーションソフトの基本操作）	①プレゼンテーションについて説明できる。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。	
13	PowerPoint（ビジュアルツールを利用した効果的なプレゼンテーションの作成）	①視覚的に効果的なツールを使用し、スライドを作成することができる。	
14	PowerPoint（発表技術、配布資料）	①プレゼンテーションを行う際のポイント、配布資料について説明できる。	
15	まとめ	①習熟度にあわせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	情報リテラシー Windows 11/Office 2021対応	富士通ラーニングメディア	FOM出版
参考図書等	医療従事者のための情報リテラシー	著：森由紀 監修：中村健壽	日経BP社
	情報活用コンピュータリテラシー	山崎紅	日経BPソフトプレス
授業方法	授業はテキストを使用し演習形式で行います。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	欠席するとついてこれなくなる事もありますので欠席しないようにして下さい。また、使わないと覚えられませんので積極的にコンピューターを使用して習得しましょう。		

講義科目	物理学		
担当講師	渡邊 一也		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	物理学で学習すること	①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学	
2	物理量とその表し方 (1)	①物理量 ②ベクトル量とスカラー量	
3	物理量とその表し方 (2)	①大きい数, 小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算	
4	物理学で使うグラフと関数 (1)	①数式とグラフ ②三角関数 (1)	
5	物理学で使うグラフと関数 (2)	①三角関数 (2) ②ベクトルの計算	
6	いろいろな運動 (1)	①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動	
7	いろいろな運動 (2)	①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射	
8	さまざまな力 (1)	①力とは、力の単位 ②重力 ③張力	
9	さまざまな力 (2)	①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力	
10	力のつり合いと運動の法則 (1)	①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則（ニュートンの第1法則） ③遠心力	
11	力のつり合いと運動の法則 (2)	①運動方程式（ニュートンの第2法則） ②作用反作用の法則（ニュートンの第3法則）	
12	物体の重心と回転運動 (1)	①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方	
13	物体の重心と回転運動 (2)	①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのでてこ	
14	運動量, 仕事とエネルギー (1)	①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー	
15	運動量, 仕事とエネルギー (2)	①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則	
教科書	書籍名	著者	出版社
	PT・OTゼロからの物理学	望月久・棚橋信雄	羊土社
参考図書等			
授業方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。		

講義科目		基礎教養			
担当講師		平中 志保		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数	2
教育目標		<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 文章表現における基本事項を理解し、読みやすく分かりやすい表現力を身につける。 文章表現だけでなく、生活上必要となる敬語表現、通信文の書き方も理解する。 			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	<ul style="list-style-type: none"> 国語力の把握と目標の確認 文章作成（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 表現に関する導入問題を解き、解説を行なう。 講義目標及び予定についての説明を行う。 250字程度の課題文を書かせ、学生の表現力を確認する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（尊敬語）について 分かりやすい表現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 尊敬語を理解する。 主語と述語のねじれを理解する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 縦書き通信文の書き方を理解する。 			
4	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（謙譲語）について 分かりやすい表現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 謙譲語を理解する。 主語と述語のねじれを踏まえ、正しい関係を理解する。 			
5	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（2） 文章の作成（2） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と使い方について理解する。 記書きの通信文の書き方を理解する。 主語と述語の関係を踏まえた250字程度の課題文を作成する。 			
6	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（丁寧語）について 間違いやすい敬語について 句読点の打ち方について 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧語を理解する。 尊敬・謙譲・丁寧を踏まえ、間違いやすい敬語表現を確認する。 正しい句読点の打ち方を理解する。 			
7	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 横書き通信文の書き方について理解する。 			
8	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 修飾語と被修飾語について 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 修飾語と被修飾語の関係を理解する。 			
9	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 敬語の補足説明 文章作成（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 美化語、敬語の連接、二重敬語について理解する。 修飾語と被修飾語の関係を踏まえた文章を作成する。 			
10	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の書き方の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 通信文に関する問題を通して、縦書き、横書きの書き方を確認する。 			
11	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の確認 表現上の具体と抽象について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 具体的表現と抽象的表現について理解する。 			
12	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の確認 文章作成（4） 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 具体的内容の文章を作成する。 			
13	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 表現上の一文一意について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 一文一意の文が分かりやすさの基本であることを確認する。 			
14	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 文章の構成について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 文章の基本である構成について理解する。 			
15	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 文章作成（5） 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 最後に、学習した内容を踏まえた文章を作成する。 			
教科書	書籍名	著者	出版社	発行年	
	<ul style="list-style-type: none"> 学院で作成したテキスト冊子と問題冊子 	小倉リハビリテーション学院			
参考図書等					
授業方法	講義形式・演習形式	成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語、句読点、修飾語と被修飾語の3点をしっかり抑えれば、大概の文章は書けると言われています。そこに具体的と一文一語が加わればさらに良い文章が書けるはずですが。一時間一時間を大切に、文章力の向上を目指してください。 				

講義科目		対人関係演習 I					
担当講師		福田 倫大			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院で5年、回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。					
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。					
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。					
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)					
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム					
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。					
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。					
8	人間関係①	①障がい者の家族関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。					
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。					
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。					
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。					
12	施設実習 I -①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。					
13	施設実習 I -②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。					
14	施設実習 I -③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。					
15	振り返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	ケア・コミュニケーション（電子版付）		松田 美幸		ウイネット		
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術		矢口拓宇		秀和システム		
授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート（5割） 施設実習の評価（5割）			
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。						

講義科目	対人関係演習Ⅱ					
担当講師	秋山 美佳				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	理学療法士として、回復期で5年、在宅分野で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション		①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。			
2	ボランティア活動について		ボランティア活動の意義について理解することが出来る			
3	情報収集		フィールドワーク内容について情報収集を行い、課題を選択できる			
4	フィールドワーク企画①		自らが選択した課題について計画立案が出来る			
5	フィールドワーク企画②		自らが選択した課題について計画を発表することが出来る			
6	フィールドワークの実践①		現地研修			
7	フィールドワークの実践②		現地研修			
8	フィールドワークの実践③		現地研修			
9	フィールドワークの実践④		現地研修			
10	発表と相互評価		課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う			
11	発表と相互評価		課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う			
12	課題の振り返り		事後報告としてレポート作成をすることが出来る			
13	人間関係について		人間関係について自らの考えをまとめることが出来る			
14	患者との人間関係について		患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る			
15	地域における人間関係		地域における人間関係についてグループ発表をすることが出来る			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	特に指定しない					
参考図書等	特に指定しない					
授業方法	グループワーク、フィールドワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。		
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。					

II. 專門基礎分野

講義科目	解剖学 I		
担当講師	林 達也・渡邊 一也		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	正常な人体の骨格・筋系・関節と靭帯・消化器系・呼吸器系・循環器系を学び、形態および構造を理解する。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	解剖学総論（人体の構成・人体の発生）	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ③人体の発生の概要を理解する。	
2	骨学総論、関節靭帯総論	①骨の形態・構造および骨の血管と神経について理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。	
3	消化器系 構造	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②消化器系の内臓を理解する。	
4	消化器系 消化吸収	①消化管の基本構造と附属腺の構造と機能を理解する。	
5	筋系総論	①筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ②骨格筋の作用を理解する。 ③骨格筋の神経支配を理解する。	
6	頭部の骨格と関節・咀嚼嚥下に関わる筋	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。 ②頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ③頭蓋の連結：縫合と顎関節を理解する。	
7	まとめ 1.	理解度に合わせて補足を行う。	
8	呼吸器系 構造	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②気管と気管支、肺の構造を理解する。	
9	体幹の骨格と関節 呼吸に関わる筋	①脊柱の外観及び椎骨基本的形態及び特徴を理解する。 ②胸郭の外観及び胸郭を構成する骨を理解する。 ③脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結を理解する。	
10	循環器系 心臓・血管	①血管の構造と役割を理解する。 ②心臓の位置・構造・役割を理解する。	
11	循環器系 動脈系	①大循環と小循環の違いと役割を理解する。 ②動脈系の経路を理解する。※代表的な動脈を覚える。	
12	循環器系 静脈系・リンパ系	①静脈系（門脈系を含む）の構造と機能を理解する。 ②リンパ系の構造と機能を理解する。	
13	上肢の骨格と関節	①上肢帯及び自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯及び自由上肢骨、手の連結を理解する。	
14	下肢の骨格と関節	①下肢帯及び骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯及び骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。	
15	まとめ 2.	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名		著者
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		野村 嶺 編
参考図書等	人体解剖アトラス		佐藤 達夫 訳
	消して忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験
	必要に応じて遠隔授業を実施する		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、目づ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	解剖学Ⅱ			
担当講師	佐々木 圭太・渡邊 一也		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数	2
教育目標	正常な人体の神経系・感覚器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系を学び、形態および構造を理解する。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	泌尿器系 構造	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②腎臓・尿管・膀胱の構造を理解する。		
2	泌尿器系 排尿反射と排尿	①尿の貯蔵と排尿 ②排尿反射を理解する。		
3	生殖器・内分泌系	①生殖器系、内分泌系の構造を理解する。		
4	神経系総論	①神経系の区分を理解する。④神経系の発生を理解する。 ②神経系の構造を理解する。 ③髄膜と脳室を理解する。		
5	末梢神経系①	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。		
6	末梢神経系②	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。		
7	まとめ1.	理解度に合わせて補足を行う。		
8	中枢神経系①	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。 ②大脳基底核の構造と役割を理解する。 ③間脳の構造と役割を理解する。		
9	中枢神経系②	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面（神経路と脳神経核）を理解する。		
10	中枢神経系③	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。		
11	中枢神経系④	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面（灰白質と白質の違い）を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。		
12	中枢神経系⑤	①上行性伝導路（体性感覚、視覚、聴覚）を理解する。 ②下行性伝導路（錐体路、錐体外路）を理解する。		
13	感覚器系 視覚器の構造と役割	①視覚の構造と役割を理解する。		
14	感覚器系 外皮、平衡聴覚器の構造と役割	①皮膚構造を理解する。 ②聴覚の構造と役割を理解する。		
15	まとめ2.	理解度に合わせて補足を行う。		
教科書	書籍名	著者	出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村 巖 編	医学書院	
参考 図書等	Qシリーズ 新解剖学	加藤 征 監修	日本医事新法社	
	図解解剖学辞典	山田 英知 監修	医学書院	
	人体解剖カラーアトラス	佐藤 達夫 訳	南江堂	
	消して忘れない解剖学要点整理ノート	井上 馨 編	羊土社	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験	
履修上の 注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。			

①髄膜と脳室を理解する。
②神経系の発生を理解する。

講義科目	生理学 I		
担当講師	秋山 美佳・山崎 圭		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	生理学の基礎Ⅰ 細胞膜	細胞の構造を学び、核と細胞小器官の役割および細胞膜の構造と機能を理解する。	
2	生理学の基礎Ⅱ 物質輸送	輸送体、受容体、能動輸送、サイトシスについて学び、細胞膜を介した生体分子の動きを理解する。	
3	生理学の基礎Ⅲ エネルギー生成	細胞内の解糖系とミトコンドリアにおける酸化的リン酸化を学び、細胞がどのようにしてATPを生成しているのかを理解する。	
4	消化と吸収Ⅰ	摂取した食物が咀嚼と嚥下、蠕動運動によって体内に運ばれるメカニズムと、消化に係わる胃、膵臓および胆嚢の消化液の役割を理解する。また、消化に関わる神経系について理解する。	
5	消化と吸収Ⅱ	小腸の吸収性上皮細胞における膜消化を学ぶとともに、排便のメカニズムを理解する。	
6	消化と吸収Ⅲ	三大栄養素である糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収について学び、どのような消化管ホルモンが働くのかを理解する。	
7	まとめ1.	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
8	呼吸と血液Ⅰ	内呼吸と外呼吸の違いを学び、呼吸運動のメカニズムとスパイログラムを理解する。	
9	呼吸と血液Ⅱ	血液ガスの交換と運搬機構、および酸素解離曲線の意味を理解する。さらに、呼吸中枢による調節機構を理解する。	
10	呼吸と血液Ⅲ	血液の成分と血球の機能や血液凝固について理解する。さらに血液型とは何かを理解する。	
11	血液の循環Ⅰ	固有心筋・特殊心筋の役割を学び、刺激伝導系について理解する。	
12	血液の循環Ⅱ	心電図の波形を理解する。また、心周期や前負荷・後負荷について理解する。	
13	血液の循環Ⅲ	収縮期血圧と拡張期血圧について学習し、血圧の調節機構である減圧（昇圧）反射やレニン-アンギオテンシン系を理解する。	
14	血液の循環Ⅳ	微小循環と胎児循環、リンパ系の役割を理解して浮腫が生じる機構を学ぶ。	
15	まとめ2.	8-14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 著	医学書院
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能	片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎	佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消して忘れない生理学要点整理ノート	佐々木 誠一 編集	羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	生理学Ⅱ		
担当講師	渡邊 一也・福田 倫大		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	ヒトの動物性機能を理解する。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	体液の調節と尿Ⅰ	尿の生成について腎臓の機能単位であるネフロン機能を通して学び、濾過と再吸収の機能を理解する。パソプレシンやアルドステロンによる調節機能とクリアランスの生理学的意義を理解する	
2	体液の調節と尿Ⅱ	水の出納バランスによる体液調整について、脱水、排尿の機能をとおして理解する。体液の電解質バランスの異常と病態について理解する。	
3	神経系の基礎	ニューロンの形態と機能を学び、静止電位と活動電位の生成メカニズムを理解する。軸索伝導とシナプス伝達の特徴を理解し、シナプス電位であるEPSPとIPSPの違いを理解する。	
4	内臓機能の調節Ⅰ	自律神経系が交感神経系と副交感神経によって構成され、生体の機能のバランスが調整されていることを理解する。	
5	内臓機能の調節Ⅱ	内分泌・傍分泌とは何かを理解し、それら分泌に関与する受容体やセカンドメッセンジャーについて学び、理解する。	
6	内臓機能の調節Ⅲ	下垂体・甲状腺・膵臓・副腎における内分泌機能を理解する。神経内分泌とは何かを理解する。	
7	まとめ1.	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
8	情報の受容と処理Ⅰ	中枢神経系が脳と脊髄によって構成されることを学び、特に脳各部位の機能を理解する。	
9	情報の受容と処理Ⅱ	脳神経と脊髄神経について学び、運動（遠心性）の伝導路を理解する。	
10	情報の受容と処理Ⅲ	感覚（求心性）の伝導路を理解する。疼痛の機序について理解する。	
11	情報の受容と処理Ⅳ	脳から派生する電位である脳波の分類と、睡眠の関係を理解する。記憶に関与する部位や情動の発現に関与する脳部位を理解する。	
12	情報の受容と処理Ⅴ	視覚に関与する網膜の杆体と錐体の機能を理解する。眼球運動について理解する。	
13	情報の受容と処理Ⅵ	聴覚、平衡覚、味覚および嗅覚のメカニズムについてそれぞれ理解する。	
14	外部環境からの防御	非特異的防御機構および特異的防御機構を学び、体の免疫機構について理解する。	
15	まとめ2.	8-14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 著	医学書院
参考 図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能	片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎	佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消して忘れない生理学要点整理ノート	佐々木 誠一 編集	羊土社
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目		運動学 I					
担当講師		山崎 圭・林 達也		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年前期		単位数	4	
教育目標		<p>身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。</p>					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	運動学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する		16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足		17	上肢帯と肩関節の構造 と運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する	
3	骨の分類と構成	骨の基本構造・骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。		18	上肢帯と肩関節の構造 と運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する	
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる		19	上肢帯と肩関節の構造 と運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する	
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造（形状と分類・軸・代表的な関節の観察）を理解する		20	上肢帯と肩関節の構造 と運動④	肩甲上腕リズム 上腕二頭筋長頭と肩関節を理解する	
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足		21	肘関節と前腕の構造と 運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する	
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する		22	肘関節と前腕の構造と 運動②	生理的外反肘・ヒューター線（三角）を理解する 前腕骨間膜について理解する	
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する		23	肘関節と前腕の構造と 運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋3つのでこの関係性について理解する	
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する		24	手関節と手の構造と運 動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する	
10	筋収縮について②	筋張力を理解する		25	手関節と手の構造と運 動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する	
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する		26	手関節と手の構造と運 動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る	
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する		27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する		28	脊柱・体幹の構造と運 動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する 脊椎に関わる靭帯の機能を理解する	
14	筋と神経②	α - γ 連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する		29	脊柱・体幹の構造と運 動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎・胸郭・腰椎の構造と運動について理解する	
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的变化を理解する		30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	基礎運動学			中村隆一他		医歯薬出版	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学			野村 巖 編		医学書院		
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系			坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業 方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	運動学Ⅱ					
担当講師	佐野 真由美				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 姿勢保持機構と正常歩行について理解する。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	脊柱・体幹の構造と運動③			呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する		
2	脊柱・体幹の構造と運動④			脊柱の動筋について理解する 表情筋・咀嚼筋について理解する		
3	下肢帯と股関節の構造と運動①			仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する		
4	下肢帯と股関節の構造と運動②			靭帯の走行と運動制限を理解する		
5	下肢帯と股関節の構造と運動③			股関節の動筋について理解する		
6	膝関節の構造と運動①			膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する		
7	膝関節の構造と運動②			靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する		
8	足関節の構造と運動③			足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する		
9	足関節の構造と運動④			靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する		
10	姿勢			重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する		
11	活動に関わる身体機能と構造①			歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する		
12	活動に関わる身体機能と構造②			正常歩行における床反力について理解する		
13	活動に関わる身体機能と構造③			正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する		
14	活動に関わる身体機能と構造④			効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する		
15	振り返り			学習の習熟度に合わせ補足		
教科書	書籍名			著者		出版社
	基礎運動学			中村隆一他		医歯薬出版
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 解剖学			野村 巖 編		医学書院
	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系			坂井 建雄・松村 讓児 監訳		医学書院
授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験。		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	運動学演習 I					
担当講師	林 達也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院で3年。維持期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	概論(オリエンテーション) 筋の機能と形態的变化		動筋・拮抗筋・固定筋・安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的变化について理解する。			
2	上肢上部総論		肩甲骨・上腕骨の骨指標を理解する。			
3	肩甲骨周囲の筋①		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
4	肩甲骨周囲の筋②		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
5	肩甲骨周囲の筋③		肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
6	肩関節の筋①		肩関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
7	肩関節と肘関節の筋①		肩関節・肘関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
8	上肢下部総論		橈骨・尺骨・手根骨の骨指標を理解する。			
9	前腕の屈筋①		前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
10	前腕の屈筋②		前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
11	前腕の伸筋①		前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
12	前腕の伸筋②		前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。			
13	手内在筋・手外在筋		手内在筋・手外在筋について、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。			
14	上肢筋の支配神経		神経の走行とその支配筋について理解する。			
15	まとめ		学習の習熟度に合わせ補足			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		野村 嶺 編		医学書院	
	基礎運動学		中村 隆一		医歯薬出版	
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系		坂井 建雄・村松 譲児		医学書院	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）		青木 隆明		メジカルビュー社	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）		青木 隆明		メジカルビュー社	
授業 方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験（70%） 演習時の課題（30%）		
履修上の 注意	演習を中心に実施していくため、実技着を着用すること。					

講義科目		運動学演習Ⅱ					
担当講師		吉廣 伸隆			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	1年後期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）				
1	下肢上部総論		骨盤・大腿骨・脛骨腓骨上部の骨指標を理解する。				
2	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋①		股関節の前面・後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
3	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋②		股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
4	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋③		股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
5	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋④		股関節の内転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
6	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋⑤		大腿前面及び後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
7	下肢下部総論		下腿骨下部・足部の骨指標を理解する。				
8	下腿骨下部・足部の筋①		下腿前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
9	下腿骨下部・足部の筋②		下腿後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
10	下腿骨下部・足部の筋③		下腿後面及び外側の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
11	下肢筋の支配神経		神経の走行とその支配筋について理解する。				
12	下肢筋の整理		下肢筋の位置関係と各筋の作用、支配神経について整理する。				
13	頭部及び体幹総論		頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。				
14	体幹前面の筋		体幹前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。				
15	体幹後面の筋		体幹後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。				
教科書	書籍名		著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学		野村 嶺 編 中村 隆一		医学書院 医歯薬出版		
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		坂井 建雄・村松 譲児		医学書院		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）		青木 隆明		メジカルビュー社		
運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）		青木 隆明		メジカルビュー社			
授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験（70%） 演習時の課題（30%）			
履修上の注意	演習を中心に実施していくため、実習着を着用すること。						

講義科目	人間発達学					
担当講師	佐野 真由美				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	人間発達総論			①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③発達の検査の目的、方法、種類を理解する。		
2	姿勢反射・反応			①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。		
3	胎児期の発達			①受精に関する過程を理解する。 ②胎児の発達過程を理解する。 ③胎児期に出現する反射の確認を行う。		
4	新生児期の発達			①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（早産・低出生体重児）を理解する。		
5	乳幼児期の発達			①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（脳性麻痺）の概要を理解する。		
6	幼児期の発達			①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害)の概要を理解する。		
7	上肢機能の発達			①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。		
8	ADLの発達1（食事・排泄・更衣）			①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。		
9	ADLの発達2（遊び）			①遊びの発達を理解する。		
10	感覚・知覚・認知の発達			①感覚・知覚・認知の発達を理解する。		
11	言語・社会性の発達			①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。		
12	学童期の発達			①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。		
13	青年期の発達			①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。		
14	成人・老年期の発達			①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。 ④人間発達における性差について理解する。		
15	各期の発達のまとめ			胎児期から老年期まで生涯の発達についてまとめ、理解度に応じて補足を行う		
教科書	書籍名			著者		出版社
	イラストでわかる人間発達学			上杉 雅之 監修		医歯薬出版株式会社
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学			大城 昌平 編		メディカルプレス
	生涯人間発達論			服部「祥子		医学書院
	標準理学療法学・作業療法学 人間発達学			岩崎 清隆		医学書院
授業方法	講義および演習方式で授業を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評					

講義科目	リハビリテーション基礎医学 I					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション・総論		リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。			
2	運動と筋		筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要な栄養素及び酸素について理解する。			
3	栄養学の基礎		3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。			
4	運動と呼吸①		呼吸のメカニズムの基礎を理解する			
5	運動と呼吸②		運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する			
6	運動と循環①		循環器のメカニズムの基礎を理解する			
7	運動と循環②		運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する			
8	運動と神経		運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する			
9	運動とホルモン		運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する			
10	運動と体温調節		体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する			
11	体力の測定		体力の中でも特に、持久力の指標について理解する			
12	運動量の測定		運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる			
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防		加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する			
14	栄養療法の活用		主な病態に対する栄養療法を理解する			
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命		運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法(救急救命)を理解する			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	入門運動生理学		勝田 茂		杏林書院	
参考 図書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎		栢下淳 若林秀隆		医歯薬出版	
	生化学・栄養学		内山 靖 編		医歯薬出版	
	生体のしくみ標準テキスト（電子書籍）		高松 研		医学映像教育センター	
授業 方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。					

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ		
担当講師	新小文字病院の薬剤師・放射線技師		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する。	
2	四肢の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
3	四肢の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
4	胸腹部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
5	胸腹部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
6	頭頸部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
7	頭頸部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。	
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する。	
9	薬物療法総論	リハビリテーションに関連する薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する。	
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用についてリハビリテーションと関連づけて理解する。	
11	血圧に関与する薬物療法	血圧（特に降圧）に関与する薬物療法について理解する。	
12	血栓に関する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する。	
13	疼痛に関する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する。	
14	代謝に関する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する。	
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた	水間正登 編集	南江堂
	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学	内山靖・藤井浩美・立石雅子	医歯薬出版
参考図書等	解剖生理学	坂井建雄	医学書院
授業方法	講義形式にて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。		

講義科目	医学概論					
担当講師	佐々木 圭太				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	医学の倫理		オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント			
2	医療の歴史		ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史			
3	健康・病気・医学の体系		健康とは、病気の理解と分類			
4	病気の原因		病理学とは、病気の原因			
5	病気による身体の変化①		血行障害による病変、進行性・退行性的変化、炎症			
6	病気による身体の変化②		腫瘍			
7	神経疾患について		神経疾患の病態生理			
8	運動器疾患について		運動器疾患の病態生理			
9	内部疾患について		内部疾患の病態生理			
10	病気の診断		診断の方法			
11	病気の治療		治療法の概要			
12	病気の予防		予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防			
13	医療システム		わが国の医療システムとその役割			
14	死の判定		ターミナルケア、尊厳死			
15	リハビリテーションとは		リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	リハビリテーションビジュアルブック		稲川 利光 (編集)		学研	
参考 図書等	現代医学概論		柳澤信夫		医歯薬出版	
	学生のためのリハビリテーション医学概論		栢森良二		医歯薬出版	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。					

講義科目	病理学概論		
担当講師	張 皿		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	①疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる	
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる	
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる	
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる	
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる	
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる	
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる	
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる	
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる	
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる	
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる	
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝癌、胆石症、膵癌について説明できる	
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる	
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる	
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる	
教科書	書籍名		著者
	はじめの一步のイラスト病理学		深山 正久 編
参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学		大橋 健一
			医学書院
授業方法	講義形式。適宜画像を供覧。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化はPT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。		

講義科目	整形外科学		
担当講師	新小文字病院 医師		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。		
講義計画（講義内容を含む）			
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。	
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。	
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。	
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。	
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。	
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。	
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。	
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。	
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。	
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。	
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。	
12	慢性関節疾患（退行性・代謝性）	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。	
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。	
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。	
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。	
教科書	書籍名		著者
	標準整形外科		内田 淳正
参考 図書等	病気が見える Vol.11 運動器・整形外科		医学情報科学研究所
	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学		医学書院
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。		

講義科目	内科学			
担当講師	新小文字病院 医師		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。		
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。		
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。		
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環動態を理解する。		
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。		
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。		
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。		
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。		
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。		
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。		
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。		
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。		
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。		
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のⅠ～Ⅴ型の生じ方と関連疾患について理解する。		
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。		
教科書	書籍名	著者	出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 内科学	大成 浄志	医学書院	
参考 図書等	病気がみえる vol.1 消化器 第5版	医療情報科学研究所（編集）	メディックメディア	
	病気がみえる vol.2 循環器 第3版	医療情報科学研究所（編集）	メディックメディア	
	病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版	医療情報科学研究所（編集）	メディックメディア	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験	
履修上の 注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。			

講義科目	神経内科学					授業時間数	30
担当講師	佐野 真由美				急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験				
教育目標	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。						
No.	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②中枢神経と末梢神経の違いを理解する。					
2	神経学的検査と臨床検査①	①脳の構造と機能の概要を理解する。 ②画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。					
3	神経学的検査と臨床検査②	①脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ②脳神経検査、身体機能検査の診断基準を理解する。					
4	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。					
5	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。					
6	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。					
7	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子、病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。					
8	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。					
9	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序、診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序、分類、診断と治療を理解する。					
10	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。					
11	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。					
12	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。					
13	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。					
14	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。					
15	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。（神経原性） ②筋ジストロフィー症（典型例）の病態と症状を理解する。（筋原性） ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。（神経筋接合部）					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 病気が見える7（脳・神経）		川平 和美 編 医療情報科学研究所		医学書院 Medic Media		
参考図書等							
授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。 必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。						

講義科目	臨床心理学		
担当講師	松田 拓也		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。	
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。	
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。	
4	心を理解する：心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投射法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。	
5	心を理解する：心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。	
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。	
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。	
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。	
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。	
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。	
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。	
12	心理療法の理論モデル③ 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。	
13	心理療法の理論モデル④ 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミクスを理解する。	
14	心理療法の実際 クライアントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成、転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名	著者	出版社
	面白いほど良くわかる 臨床心理学	下山 晴彦 著	西東社
参考 図書等	よくわかる臨床心理学	下山 晴彦 著	ミネルヴァ書房
	公認心理師必携テキスト	福島 哲夫	学研メディカル秀潤社
	リハビリテーションのための臨床心理学	牧瀬 英幹	南江堂
授業 方法	教科書に沿った講義および演習を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学		
担当講師	二階堂 晴江		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。		
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。	
2	精神障害の症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。	
3	精神科面接法と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②検査法や評価尺度を学ぶ。 ③PT・OTにとって面接や評価における重要な視点を学ぶ	
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。	
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。	
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。	
7	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。	
8	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症狀の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。	
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。	
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。	
11	神経症性障害	①神経症性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。	
12	神経症性障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。	
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。	
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名	著者	出版社
	PT・OTビジュアルテキスト 精神医学	先崎 章 監修	羊土社
参考 図書等	標準理学療法学・作業療法学 精神医学	上野 武治 編	医学書院
	学生のための精神医学	太田 保之	医歯薬出版
授業 方法	教科書、スライド、DVDを用い講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	各精神障害について、原因、発生機序、症状、検査、診断、治療、経過、予後、疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。		

講義科目	リハビリテーションと理学療法 I					
担当講師	山崎 圭				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院で4年、生活期で1年、老人福祉施設で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェSSIONナリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	学修の在り方の理解		講義、教科書、参考文献から重要事項や課題点・目標などを設定できる。得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを表現できる。			
2	理学療法士の定義		理学療法士の役割について知る			
3	医療倫理と理学療法倫理		倫理の原則について理解し、遵守して実践できる 医療及び理学療法の倫理に関する規範・原則を説明できる			
4	理学療法士の活動分野 1		理学療法士の活動分野について理解する			
5	理学療法士の活動分野 2		理学療法士の活動分野について理解する			
6	理学療法士の活動実践 1		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
7	理学療法士の活動実践 2		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
8	理学療法士の活動実践 3		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
9	理学療法士の活動実践 4		急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。			
10	対象者の理解		インフォームドコンセントの必要性について理解する 障害受容過程について理解する			
11	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて考える①			
12	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて考える②			
13	グループワーク・キャリアデザイン		自らのキャリアデザインについて発表する			
14	理学療法教育・臨床実習		理学療法教育の歴史について理解できる 臨床実習の目的について理解できる			
15	理学療法士に必要な能力		臨床現場で求められる能力について理解し、自らの課題について考えることができる			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法概論テキスト		細田 多穂 監修		南江堂	
参考 図書等	理学療法学テキストI 理学療法学概論 第4版		千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精		神陵文庫	
	リハビリテーション職種のカリヤ・デザイン		大町 かおり 高木 綾一		シービーアール	
	リハビリテーションビジュアルブック		編集：稲川利光		学研	
授業 方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出課題		
履修上の 注意	リハビリテーション専門職となるための入門授業である。 実際のリハビリテーションの在り方を学び、将来の自己イメージを高めて下さい。					

講義科目	リハビリテーションと理学療法Ⅱ					
担当講師	佐野 真由美				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	社会保障制度			保健医療福祉施策の動向について理解することができる		
2	医療保険制度			医療保険制度について理解することができる		
3	介護保険制度			介護保険制度について理解することができる		
4	障害者総合支援法			障害者総合支援法について知る 就労支援及び自立支援について知る		
5	地域包括ケアシステム			地域包括ケアシステムの概要について知る		
6	理学療法士・作業療法士とは			理学療法士及び作業療法士法について理解する。 法令に基づく理学療法士の在り方について理解する。		
7	関連職種の理解と関わり方 1			リハビリテーション医療とは何かを理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価		
8	関連職種の理解と関わり方 2			リハビリテーション医療とは何かを理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価		
9	障害のとらえ方 1			国際生活機能分類		
10	障害のとらえ方 2			事例検討		
11	予防医療			予防の概念について理解する 予防理学療法とはどのような内容か説明できる		
12	コンプライアンス・個人情報管理について			コンプライアンスとは何かについて説明できる。 個人情報とは何かについて理解し、漏洩防止策について説明できる。		
13	医療事故			医療事故、院内感染について説明できる。 医療事故が発生した場合の対応について説明できる。		
14	研究によるエビデンス			研究の意義について説明できる エビデンスレベルについて説明できる		
15	救急救命（BLS）			救急救命法について経験する		
教科書	書籍名			著者		出版社
	理学療法概論テキスト			細田 多穂 監修		南江堂
参考 図書等	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版			千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精一郎(編)		神陵文庫
	理学療法概論 第1版			庄本 康治		羊土社
	リハビリテーションビジュアルブック			編集：稲川利光		学研
授業 方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験	
履修上の 注意	理学療法士は制度の下で働きます。働くために必要な制度や視点を身近な事例から考えられるように想像力を深めてください。					

Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	基礎理学療法学 I					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	理学療法法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション			授業の進め方、レポート提出、グループワークの約束について理解する。		
2	基本姿勢と基本動作の概要			基本姿勢・基本動作について関連付けて理解する。		
3	基本姿勢			基本姿勢について、名称、肢位、支持基底面の広さ、姿勢の特徴について理解する。		
4	基本動作			基本動作について、動作を相分けして、肢位と運動方向、支持基底面の広さと重心の位置、動作の特徴について理解する。		
5	高齢者体験①			【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)		
6	高齢者体験②			【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)		
7	高齢者体験③			体験した内容の感想を発表し、どのようなリハビリが適応となるか考える。		
8	動作観察①			動作困難な原因を仮説立案する。		
9	動作観察②			動作困難な原因を仮説立案する。		
10	筋と関節運動			筋の起始、停止、関節運動について理解する。		
11	ストレッチ			Ib抑制を用いたストレッチを体験し評価する。		
12	筋力増強訓練①			上肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。		
13	筋力増強訓練②			下肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。		
14	持久力増強訓練			Karvonen法と運動強度について説明し、体験する。 運動前後の生体反応について理解し、バイタル測定を実施する。		
15	筋力、持久力増強訓練のまとめ			筋力・持久力増強運動について理解する。		
教科書	書籍名			著者		出版社
参考図書等	必要に応じて授業中に提示する。					
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	レポート提出状況(20%×1) 定期試験(80%)にて評価する。	
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。					

講義科目	基礎理学療法学Ⅱ					
担当講師	木村 公治				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院で19年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション 理学療法の対象と関連科目		授業の進め方、グループワークの約束について説明する。 理学療法の対象とその関連科目について理解する。			
2	感染症とその対策①		感染症の概要と標準的予防策(standard precaution)について理解する。			
3	感染症とその対策②		【演習】 手洗い、うがいを実践的に学ぶ。			
4	加齢変化と廃用症候群		加齢に伴う身体変化と廃用症候群について理解する。			
5	障がい者体験①		【演習】 障がい者にとって障壁となる動作、機能、環境を想定し、それらの対策案を話し合う。			
6	障がい者体験②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
7	障がい者体験③		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
8	障がい者体験④		障がい者体験についてグループ発表を行う。			
9	障がい者体験⑤		障がい者体験についてグループ発表を行う。(レポート：1回目)			
10	車椅子体験①		車椅子の名称や種類について理解する。 車椅子利用者にとって、障壁となる道路や施設の特徴についての対策案を話し合う。			
11	車椅子体験②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験			
12	車椅子体験③		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験			
13	車椅子体験④		車椅子体験についてグループ発表を行う。(レポート：2回目)			
14	チーム医療と包括的リハビリテーション①		チーム医療に必要な資質面、認知面、精神運動面を考察し、検討する。			
15	チーム医療と包括的リハビリテーション②		チーム医療と包括的リハビリテーションについて調査し、具体例を検討する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
参考図書等	老年学 第5版 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野		奈良 勲		医学書院	
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート提出状況(10%×2) 定期試験(80%)にて評価する。		
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。					

講義科目	生活機能演習					
担当講師	林 達也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院で3年。維持期病院で8年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション ICFにおける生活機能 概要			ICFの構成を確認し、生活機能の構成要素とその関連を理解する。		
2	ICFにおける生活機能 詳細			ICFにおける生活機能の各項目の詳細を理解する		
3	生活機能と環境因子・個人因子 概要			ICFの構成を確認し、生活機能と環境因子・個人因子の関連を理解する		
4	模擬症例紹介			模擬症例（中枢神経系障害・運動器系障害患者）を参照し、レポート作成の方法を理解する		
5	運動器系障害患者の生活機能① （生活機能低下）			運動器系障害患者における生活機能の低下を想定する		
6	運動器系障害患者の生活機能② （評価）			生活機能の低下に対する評価項目を列挙する		
7	運動器系障害患者の生活機能③ （理学療法）			生活機能の低下に対する理学療法を立案する		
8	運動器系障害患者の生活機能④ （予防）			生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える		
9	運動器系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）			グループで発表を行い、聴講し、理解を深める		
10	中枢神経系障害患者の生活機能① （生活機能低下）			中枢神経系障害患者における生活機能の低下を想定する		
11	中枢神経系障害患者の生活機能② （評価）			生活機能の低下に対する評価項目を列挙する		
12	中枢神経系障害患者の生活機能③ （理学療法）			生活機能の低下に対する理学療法を立案する		
13	中枢神経系障害患者の生活機能④ （予防）			生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える		
14	中枢神経系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）			グループで発表を行い、聴講し、理解を深める		
15	ICFにおける生活機能			症例を通して学んだ生活機能の理解を確認する		
教科書	書籍名			著者		出版社
参考 図書等	ICFの理解と活用			上田 敏		萌文社
	整形外科ビジュアルリハビリテーション			稲川 利光		学研メディカル秀潤社
	病気が見える7（脳・神経）			医療情報科学研究所		Medic Media
授業 方法	グループワーク及び調べ学習、レポート作成 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の 注意	グループワークを中心にレポートを作成します。個々の調べ学習をグループで集約し、知識を深めましょう。					

講義科目	臨床運動学演習 I					
担当講師	佐々木 圭太				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	臨床運動学概論			①臨床運動学の意義・目的・範囲を理解する。 ②動作分析は運動学と運動力学からなることを理解する。		
2	動作分析の基礎知識①			①運動力学の基本を説明できる（重力・重心・ベクトル）		
3	動作分析の基礎知識②			①運動力学の基本を説明できる（物理学の法則、モーメント）		
4	姿勢分析①			①動作分析の手順が説明できる。 ②正常な姿勢を理解する。分析の方法を計画する。		
5	姿勢分析②			①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②姿勢分析について説明する。（発表）		
6	立ち上がり動作分析①			①高い椅子と低い椅子で比較する。 ②速い立ち上がりと遅い立ち上りを比較する。以上2点を中心に立ち上りを分析する。		
7	立ち上がり動作分析②			①なぜ低い椅子で筋力を必要とするのか説明できる。 ②なぜ速い立ち上がりのほうが筋力を必要とするのか説明できる。		
8	寝返り・起き上がりの動作分析①			①寝返り・起き上がり動作を理解する。		
9	寝返り・起き上がりの動作分析②			①観察した内容に対するの考察を記載する。		
10	寝返り・起き上がりの動作分析③			①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②観察した内容に対するの分析内容について説明する。（発表）		
11	歩行分析①			①歩行について理解する（相分け、関節の動き）		
12	歩行分析②			①歩行について理解する（床反力、筋活動） ②歩行分析方法を計画する。		
13	歩行分析③			①歩行観察した内容に対するの考察を記載する。		
14	歩行分析④			①歩行分析内容について説明する。（発表）		
15	姿勢・動作分析まとめ			①筋電図や三次元動作解析装置、床反力計などを用いて動作を考える。 ②歩行支援ロボットの臨床活用について理解する。		
教科書	書籍名		著者		出版社	
	動作分析臨床活用講座		石井慎一郎		メジカル・エー社	
	観察による歩行分析		月城慶一,他（訳）		医学書院	
参考図書等						
授業方法	講義と実技 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	臨床において必要な知識・技術であるため、しっかりと復習して下さい。					

講義科目		臨床運動学演習 II				
担当講師		佐野 真由美			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。				
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	異常姿勢・姿勢分析		①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。			
2	運動器系疾患の歩行分析①		①運動器系疾患（1）の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患（1）の歩行を観察し、模倣する。			
3	運動器系疾患の歩行分析②		①運動器系疾患（1）の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。			
4	運動器系疾患の歩行分析③		①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。 ②運動器系疾患（2）の歩行の特徴を考える			
5	運動器系疾患の歩行分析④		①運動器系疾患（2）の歩行を観察し、模倣する。 ②運動器系疾患（2）の歩行観察内容を記載する。			
6	運動器系疾患の歩行分析⑤		①観察した異常歩行の原因について考察し記載する。 ②観察した運動器系疾患の歩行について説明する。			
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①		①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②		①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
9	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③		①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。			
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①		①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の立ち上がり動作を模倣する。			
11	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②		①観察した立ち上がり動作について説明する。			
12	中枢神経系疾患の歩行分析①		①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。			
13	中枢神経系疾患の歩行分析②		①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
14	中枢神経系疾患の歩行分析③		①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。			
15	基本動作・歩行振り返り		①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	動作分析 臨床活用講座		石井慎一郎		メジカル・エー社	
	観察による歩行分析		月城慶一,他（訳）		医学書院	
参考図書等						
授業方法	講義と演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。					

講義科目	理学療法管理学					
担当講師	山崎 圭				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 3年前期	実務経験	回復期病院で4年、生活期で1年、老人福祉施設で1年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	理学療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	理学療法管理、倫理、教育		理学療法管理、倫理、教育について復習、確認を行う。			
2	理学療法の実施と対価		診療報酬・介護報酬・補装具の給付、貸与について説明できる。			
3	理学療法の実施後の管理		診療記録と書類管理（電子カルテ、リハビリテーション総合実施計画書などを含む）について説明できる。			
4	理学療法の実施における他職種との業務調整		理学療法実施における、処方内容の確認や他職種への申し送り、多職種連携とカンファレンスについて説明できる。			
5	理学療法機器の管理		理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について説明できる。			
6	人事考課		職員採用・昇格審査について説明できる。			
7	労務管理		勤務時間・休暇管理について説明できる。			
8	理学療法倫理①		コンプライアンス・法令違反・ハラスメントについて説明できる。			
9	理学療法倫理②		①医療広告ガイドラインについて説明できる。 ②対象者・他職種との利害衝突、コンフリクトマネジメントについて説明できる。			
10	理学療法士国家試験		①理学療法士国家試験の出題基準について説明できる。			
11	診療参加型実習		①理学療法士養成における臨床実習の到達目標について説明できる。 ②診療参加型実習について説明できる。			
12	臨床実習前後の評価		臨床実習前後の評価（OSCE等）について説明できる。			
13	臨床教育の方法		メンター制、プリセプター制について説明できる。			
14	生涯学習制度		①生涯学習制度について説明できる。 ②理学療法に関する職能団体とその役割を説明できる。			
15	理学療法士のキャリア開発の実際		①理学療法士におけるキャリア開発の実際がイメージできる。 ②キャリア開発の必要性を説明できる。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	PTOTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学		斎藤昭彦		羊土社	
参考図書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE		才藤栄一		金原出版	
授業方法	講義		成績評価方法	定期試験にて判断する。		
履修上の注意	予習、復習に努め自主的に学習して下さい。					

講義科目	基礎評価学演習 I					
担当講師	木村 公治				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院で19年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	総論	①オリエンテーション ②理学療法評価とは		16	関節可動域測定 ⑤	①前腕 ②手指の関節
2	医療面接	①コミュニケーションとは ②医療面接とは		17	関節可動域測定 ⑥	①股関節
3	バイタルサイン ①	①バイタルサインとは ②バイタルサインの臨床的意義		18	関節可動域測定 ⑦	①股関節
4	バイタルサイン ②	①血圧・脈拍測定の実際		19	関節可動域測定 ⑧	①膝関節 ②足関節
5	バイタルサイン ③	①血圧・脈拍測定の実際		20	関節可動域測定 ⑨	①足部の関節 ②肩甲帯
6	触診①	①ランドマークの触診		21	関節可動域測定 ⑩	①頸部 ②胸腰部 ③その他の検査法
7	触診②	①ランドマークの触診		22	関節可動域測定 ⑪	①まとめと復習
8	形態測定① (総論)	①四肢長測定の意義・目的 ②四肢長測定(上肢)		23	関節可動域測定 ⑫	①まとめと復習
9	形態測定②	①四肢長測定(下肢)		24	反射検査① (総論)	①反射検査の意義・目的
10	形態測定③	①四肢周径測定の意義・目的 ②四肢周径測定(上肢)		25	反射検査②	①深部腱反射(上肢)
11	形態測定④	①四肢周径測定(下肢)		26	反射検査③	①深部腱反射(下肢)
12	関節可動域測定① (総論)	①関節可動域測定の意義・目的		27	反射検査④	①表在反射
13	関節可動域測定②	①肩関節		28	反射検査⑤	①病的反射
14	関節可動域測定③	①肩関節		29	理学療法評価の概要	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査における解釈と統合
15	関節可動域測定④	①肘関節 ②手関節		30	まとめ	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査のまとめ
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		松澤 正、江口 勝正		金原出版株式会社	
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた		田崎義昭		南山堂	
授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	知識として頭で覚えるだけでなく、実際に体を動かし、繰り返し練習して技術を習得するよう心がけてください。練習の際は、他者から指摘を受けられるよう、3人以上で行うことが望ましいです。					

講義科目		基礎評価学演習 II					
担当講師		福田 倫大			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	1年後期	実務経験	急性期病院で5年、回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		評価学演習 I にて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		No.	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	総論 筋力検査の概論	評価学演習 I からの流れ (評価の位置づけなど) の再確認 ①筋力概念 ②各種筋力検査について ③粗大筋力とは		16	徒手筋力検査法 上肢 ③	肩関節の徒手筋力検査法演習 ③	
2	徒手筋力検査法 概論	①徒手筋力検査法とは ②段階付けと検査の流れについて		17	徒手筋力検査法 上肢 ④	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ①	
3	徒手筋力検査法 下肢 ①	股関節の徒手筋力検査法演習 ①		18	徒手筋力検査法 上肢 ⑤	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ②	
4	徒手筋力検査法 下肢 ②	股関節の徒手筋力検査法演習 ②		19	徒手筋力検査法 上肢 ⑥	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ③	
5	徒手筋力検査法 下肢 ③	股関節の徒手筋力検査法演習 ③		20	徒手筋力検査法 肩甲帯 ①	肩甲帯の徒手筋力検査法演習 ①	
6	徒手筋力検査法 下肢 ④	膝関節の徒手筋力検査法演習		21	徒手筋力検査法 肩甲帯 ②	肩甲帯の徒手筋力検査法演習 ②	
7	徒手筋力検査法 下肢 ⑤	足関節・足部の徒手筋力検査法演習 ①		22	徒手筋力検査法 その他 ①	手指の徒手筋力検査法演習	
8	徒手筋力検査法 下肢 ⑥	足関節・足部の徒手筋力検査法演習 ②		23	徒手筋力検査法 その他 ②	脳神経の徒手筋力検査法演習	
9	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ①	体幹の徒手筋力検査法演習 ①		24	徒手筋力検査法 上肢・肩甲帯・ 手指・脳神経	徒手筋力検査法演習 まとめ 疾患をイメージした検査の実施 上肢・肩甲帯・手指	
10	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ②	体幹の徒手筋力検査法演習 ②		25	知覚検査 ①	知覚概念 知覚検査(表在感覚検査)の方法	
11	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ③	頭頸部の徒手筋力検査法演習 ①		26	知覚検査 ②	知覚検査(表在感覚検査)の方法と演習	
12	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ④	頭頸部の徒手筋力検査法演習 ②		27	知覚検査 ③	知覚検査(表在感覚検査)演習	
13	徒手筋力検査法 下肢・頭頸部・ 体幹	徒手筋力検査法演習 まとめ 疾患をイメージした検査の実施 下肢・頭頸部・体幹		28	知覚検査 ④	知覚検査(深部感覚検査)の方法と演習	
14	徒手筋力検査法 上肢 ①	肩関節の徒手筋力検査法演習 ①		29	疼痛検査 ①	①疼痛検査の方法と演習 ②情報収集と医療面接の方法	
15	徒手筋力検査法 上肢 ②	肩関節の徒手筋力検査法演習 ②		30	まとめ	まとめ	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	新・徒手筋力検査法 理学療法評価学		Helen J.Hislop 松澤 正、江口 勝正		協同医書 金原出版		
参考 図書等	運動のための機能解剖学的触診技術上肢・下肢		林典雄		メディカルビュー		
	ベッドサイドの神経の診かた		田崎義昭		南山堂		
	四肢と脊柱の診かた		S.Hoppenfeld(著)、野島元雄(訳)		医歯薬出版		
	基礎運動学 第6版 改訂		中村隆一		医歯薬出版		
授業 方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の 注意	実技演習が主体となります。積極的に行動し、習得に努めて下さい。						

講義科目		基礎評価学演習Ⅲ					
担当講師		秋山 美佳			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	理学療法士として、回復期で5年、在宅分野で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	中枢神経系疾患の評価	中枢神経系疾患の評価の意義・目的 中枢神経系疾患のリスク管理 中枢神経系疾患の画像評価		16	股関節疾患の評価①	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
2	意識・認知機能の評価	意識レベルとは、JCS・GCSの検査法 認知とは、HDS-R、MMSEの検査		17	股関節疾患の評価②	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
3	脳神経検査①	脳神経の役割		18	膝関節疾患の評価①	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
4	脳神経検査②	脳神経検査の意義・方法・実技		19	膝関節疾患の評価②	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
5	脳神経検査③	脳神経検査の意義・方法・実技		20	足関節疾患の評価	足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト	
6	筋緊張検査①	筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性		21	脊椎疾患の評価①	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
7	筋緊張検査②	筋緊張検査の方法と記載法		22	脊椎疾患の評価②	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
8	協調性検査①	協調性検査の種類、実技		23	上肢疾患の評価①	上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト	
9	協調性検査②	協調性検査の種類、実技		24	上肢疾患の評価②	上肢の整形外科テスト	
10	片麻痺機能検査①	Brunnstrom stage test（概要）		25	その他の評価	まとめ、復習	
11	片麻痺機能検査②	Brunnstrom stage test （実技）		26	姿勢制御とバランス反応	姿勢の制御について バランス反応とは	
12	片麻痺機能検査③	Brunnstrom stage test （実技）		27	バランス評価①	バランス評価とは ①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応	
13	片麻痺機能検査④	12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)		28	バランス評価②	FRT(Functional Reach Test)および TUG(Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義	
14	片麻痺機能検査⑤	SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) 脳卒中に関する評価		29	バランス評価③	BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義	
15	骨関節系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理 骨関節系疾患の画像評価		30	歩行評価	歩行評価とは 10m歩行	
教科書	書籍名			著者			
	理学療法評価学			松澤正・他			
	脳卒中中の機能評価 SIASとFIM（基礎編）			千野直一			
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた			田崎義昭			
授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして色々な人とペアを組んで練習をして技術を獲得しましょう。また、習熟度を確認しながら授業を進めていきます。						

講義科目	臨床評価学演習 I					
担当講師	木村 公治				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院で19年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション			評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる		
2	学生としての基本的な姿勢			実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～		
3	検査の目的と対象者への説明			検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる		
4	検査：バイタルサイン（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：バイタルサイン（脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用法、記録の実際）		
5	検査：バイタルサイン（実技テスト）			対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
6	検査：バイタルサイン（実技テスト）			対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
7	検査：形態測定（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：形態測定（四肢長と周径の測定方法、検査器具の取り扱いと記録の実際）		
8	検査：形態測定（実技テスト）			対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
9	検査：形態測定（実技テスト）			対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
10	検査：形態測定（実技テスト）			対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
11	検査：関節可動域測定（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）		
12	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
13	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
14	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
15	まとめ			それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる		
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		著者 松澤正・江口勝彦		金原出版	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編		監修 才藤栄一		金原出版株式会社	
	PTOTのための評価測定 形態計測・感覚検査・反射検査		監修 福田 修		三輪書店	
	PTOTのための評価測定 ROM測定		監修 福田 修		三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験（60%）、提出課題（25%）、学修態度（15%）を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。					

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ					
担当講師	福田 倫大				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院で5年、回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					
No.	講義計画			行動目標（学習目標）		
1	検査：関節可動域測定（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（下肢の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）		
2	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
3	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
4	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
5	検査：関節可動域測定（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（手指・肩甲帯の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）		
6	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
7	検査：関節可動域測定（実技テスト）			対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
8	検査：MMT（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹の測定、記録の実際）		
9	検査：MMT（実技テスト）			対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
10	検査：MMT（実技テスト）			対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
11	検査：MMT（実技練習）			実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（上肢・手指の測定、記録の実際）		
12	検査：MMT（実技テスト）			対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
13	検査：MMT（実技テスト）			対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
14	検査：MMT（実技テスト）			対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる		
15	まとめ			それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる		
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		著者 松澤正・江口勝彦		金原出版	
	新・徒手筋力検査法		Helen J.Hislop		協同医書出版社	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編		監修 才藤栄一		金原出版株式会社	
	PTOTのための評価測定3 MMT		監修 伊藤俊一		三輪書店	
	PTOTのための評価測定4 MMT		監修 伊藤俊一		三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験（70%）、提出課題（15%）、受講態度（15%）を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。					

講義科目		運動療法学演習				
担当講師		林 達也			授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院で3年、維持期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	運動療法総論①	①運動療法の定義、歴史を理解する。②運動療法の目的、効果、リスク管理を理解する。		16	体力の改善演習②	①全身持久力改善の方法を理解する。
2	運動療法総論②	①運動療法の必要性を理解する。②運動療法を検討するプロセスを理解する。		17	体力の改善演習③	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解し、体験する。
3	関節可動域の改善①	①関節の形態と機能、関節可動域制限因子を理解する。②関節可動域運動の目的と種類を理解する。		18	体力の改善演習④	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解できる。
4	関節可動域運動演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		19	協調性改善	①協調性障害を理解する。②協調性障害の運動療法を理解できる。
5	関節可動域運動演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		20	バランスの改善	①バランス障害を理解する。②バランス障害の運動療法を理解できる。
6	関節可動域運動演習④(下肢)	①股・膝・足の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		21	基本動作の獲得・改善①	①基本動作を理解する。②基本動作の観察・視点を理解する。
7	ストレッチング理論①	①ストレッチの原理、効果、種類を理解する。		22	基本動作の獲得・改善②	①基本動作に対する運動療法の方法を理解する。
8	ストレッチング演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		23	歩行動作の獲得・改善①	①歩行動作を理解する。②歩行動作の観察・視点を理解する。
9	ストレッチング演習③(体幹)	①頸部・胸部・胸腰部のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		24	歩行動作の獲得・改善②	①歩行動作に対する運動療法の方法を理解する。
10	ストレッチング演習④(下肢)	①股・膝・足のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		25	中枢神経系障害の運動療法	①中枢神経系障害の障害を理解する。②中枢神経系障害の運動療法の概要を知る。
11	筋力の改善理論①	①運動単位と筋線維型を理解する。②筋の肥大と萎縮を理解する。③筋力の低下、疲労を理解する。		26	骨関節系障害の運動療法	①骨関節系障害の障害を理解する。②骨関節系障害の運動療法の概要を知る。
12	筋力の改善理論②	①筋持久力について理解する。②過負荷・特異性の原理を理解する。③筋力トレーニングの特異性を理解する。		27	内部系障害の運動療法	①内部系障害の障害を理解する。②内部系障害の運動療法の概要を知る。
13	筋力の改善演習演習③(上肢)	①上肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		28	高齢者と理学療法および廃用症候群に対する運動療法	①高齢者の特徴を理解する。②廃用性症候群の症状を理解する。③上記に対する運動療法の概要を知る。
14	筋力の改善演習演習④(下肢)	①下肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		29	運動学習	①運動学習の影響因子を理解する。
15	体力の改善理論①	①体力の定義を理解する。②全身持久力について理解する。③無酸素性作業域値について理解する。		30	臨床的応用	①運動学習の臨床的応用を理解する。
教科書	書籍名		著者		出版社	
	運動療法学		柳澤 健(編集)		金原出版	
参考図書等	指定しない。					
授業方法	講義と演習【実技】 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	理学療法(士)の基礎となる重要な科目です。予習・復習を欠かさず、講義・演習(実技)に真剣に臨みましょう。					

講義科目	物理療法学					
担当講師	山崎 圭				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院で4年、生活期で1年、老人福祉施設で1年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	物理療法総論・炎症	理学療法における物理療法の位置づけとその定義を理解する。 炎症および組織修復の定義、機序について理解する。 炎症および組織修復に対する物理療法の考え方を理解する。				
2	痛み・温熱療法概論	痛みの定義、機序について理解する。 痛みに対する物理療法の考え方を理解する。 温熱療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。				
3	温熱療法各論①	ホットパック、パラフィンの特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
4	温熱療法各論②	極超短波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
5	温熱療法各論③	超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
6	温熱療法各論④	超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
7	温熱療法演習	ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波を実施できる。				
8	寒冷療法概論・各論	寒冷療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 アイスパック、クリッカーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
9	光線療法概論・各論	光線療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 赤外線・レーザーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
10	水治療法概論・各論	水治療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 渦流浴、プール浴、交代浴の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
11	寒冷・光線・水治療法演習	アイスパック、クリッカーを実施できる。 赤外線療法を実施できる。 渦流浴を実施できる。プール浴を理解する。				
12	電気療法概論・各論①	電気刺激療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 電気刺激によるバイオフィードバック療法を理解する。				
13	電気療法各論②	治療的電気刺激療法（TES）、神経・筋電気刺激療法（NMES）、経皮的末梢神経電気刺激療法（TENS）、干渉波電気刺激療法（IFCS）、機能的電気刺激療法（FES）の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
14	牽引療法概論・各論	牽引療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 頸椎牽引、腰椎牽引の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
15	電気刺激・牽引療法演習・まとめ	TES、NMES、TENS、IFCS、FES電気刺激療法を実施できる。 頸椎牽引、腰椎牽引を実施できる。 各々の物理療法の要点を理解する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキスト IX 物理療法		監修 千住秀明		神陵文庫	
参考図書等	理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック		木村 貞治		文光堂	
	ゴールドマスターテキスト3 物理療法学		柳澤 健		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義と演習形式にて実施 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	物理療法機器の取り扱い実習着の着用必須					

講義科目	日常生活活動学演習 I					
担当講師	林 達也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	回復期病院で3年。維持期病院で8年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	ADLの概念と範囲		ADLの概念や範囲を理解する。ADLとQOLの関係を理解する。			
2	日常生活活動の運動学①		静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
3	日常生活活動の運動学②		動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
4	起居・移乗動作について①		重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。			
5	起居・移乗動作について②		寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。			
6	起居・移乗動作について③		起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。			
7	起居・移乗動作について④		立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。			
8	起居・移乗動作について⑤		移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。			
9	self careについて①		食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
10	self careについて②		排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
11	self careについて③		更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
12	移動補助具について（杖）①		杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。			
13	移動補助具について（杖）②		演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。			
14	移動補助具について（松葉杖）③		松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。 演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。			
15	移動補助具について（歩行器）④		歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法学テキストⅤ 日常生活活動（ADL）		千住 秀明		神陵文庫	
参考図書等	新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－		伊藤利之・江藤文夫		医歯薬出版	
	動作分析臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践-		石井慎一郎		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。					

講義科目	日常生活活動学演習Ⅱ					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	移動補助具について（車椅子）①		車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。体圧分散の機器を必要に応じて使用することができる。			
2	移動補助具について（車椅子）②		演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
3	移動補助具について（車椅子）③		演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる			
4	日常生活活動の評価①		ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価の数量化方式のADL評価と実行可能なADL評価の特徴を説明できる。			
5	日常生活活動の評価②		代表的なADL評価の動作を細分化し、手順ごとに評価する方式と一定条件下でのADL動作能力、その他、IADL評価の特徴を説明できる。			
6	日常生活活動の評価③		QOLの各種評価法、ICFの分類と評価点の特徴を説明できる。			
7	日常生活活動の評価④		Barthel indexの概要・使用方法を理解し、採点を体験する。			
8	日常生活活動の評価⑤		FIMの概要・使用方法を理解し、代表的な評定尺度を説明できる。 FIMの認知項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
9	日常生活活動の評価⑥		FIMの運動項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
10	日常生活活動の評価⑦		FIMの症例検討			
11	日常生活活動の評価⑧		移動動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
12	日常生活活動の評価⑨		身の回り動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
13	日常生活活動の評価⑩		コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
14	福祉機器について		リフト・特殊寝台・自助具などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。			
15	日常生活活動 総括		学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	日常生活活動（ADL）		千住 秀明		神陵文庫	
参考図書等	脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)		千野直一		金原出版	
	新イラストによる安全な動作介助のてびき		飛松 好子		医歯薬出版	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。					

講義科目	義肢学					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	切断と義肢の基礎知識①		①切断・離断とは ②義肢 ③骨格・殻構造 ④切断高位 ⑤上肢下肢の切断原因・発生率 ⑥切断術と処理について理解する			
2	切断と義肢の基礎知識②		①切断術後のリハビリテーションの流れ ②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義について理解する			
3	大腿切断①		①大腿義足ソケットの種類と特徴 ②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御について理解する			
4	大腿切断②		①膝離断の特徴・ソケット ②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴 ④大腿義足のベンチアライメントについて理解する			
5	大腿切断③・膝関節離断		①大腿義足のスタティック・ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行 ③膝離断用義足のアライメントについて理解する			
6	大腿切断の異常歩行		①異常姿勢・異常歩行について理解する			
7	下腿切断		①下腿義足ソケットの種類と特徴 ②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行について理解する			
8	サイム切断		①サイム義足ソケットの種類と特徴 ②サイム義足のアライメントについて理解する			
9	片側骨盤切断・股関節離断①		①股義足の種類と特徴 ②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴について理解する			
10	股関節離断②・足部切断		①股義足のアライメント ②足部切断の種類 ③足部部分義足の種類・特徴について理解する			
11	下肢切断のリハビリテーション		①下肢切断に対する評価項目と意義 ②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点について理解する			
12	断端の合併症		①幻肢・幻肢痛・神経腫 ②幻肢・幻肢痛・神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮 ④拘縮予防の理学療法について理解する			
13	下肢切断のリハビリテーション		①義足装着理学療法項目と意義 ②歩行練習の流れ ③荷重練習の重要性 ④応用歩行 ⑤起居動作練習について理解する			
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション		①義手の機能的分類 ②手先具の種類と特徴 ③上肢切断に対する評価項目と意義 ④上肢切断に対する理学療法と意義について理解する			
15	まとめ		①大腿切断の異常姿勢・異常歩行 ②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断についてについて理解する			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	切断と義肢		澤村 誠志		医歯薬出版	
参考図書等	15レクチャーシリーズ 義肢学		石川 朗		中山書店	
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	自分がもし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということについて想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。					

講義科目	装具学					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	装具学総論		装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れについて理解する。 保険制度について理解する。			
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)		下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。			
3	短下肢装具(2)		金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類・機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患・症状)について理解する。			
4	短下肢装具(3)		プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。			
5	長下肢装具(1)		長下肢装具の基本的構成要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類・機能について理解する。			
6	長下肢装具(2) 免荷装具		長下肢装具の使用目的・効果について理解する。 PTB免荷装具の構造・機能・適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造・機能・適応について理解する。			
7	股装具 膝装具		股装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。			
8	下肢装具のチェックアウト		下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。			
9	靴型装具と足底装具(1)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
10	靴型装具と足底装具(2)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
11	対麻痺用装具・ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具		小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。			
12	体幹装具、側彎症装具(1)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
13	体幹装具、側彎症装具(2)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
14	上肢装具(1)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
15	上肢装具(2)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	装具学		飛松好子、高嶋孝倫(編)		医歯薬出版	
参考図書等	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学		石川朗、佐竹将宏		中山書店	
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できるようになる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。					

講義科目		中枢神経疾患の理学療法学 I					
担当講師		佐野 真由美			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	急性期病院、維持期病院で17年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		脳血管障害、脳腫瘍の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	中枢神経系障害の理学療法総論	脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。		16	急性期の理学療法	急性期理学療法の実際について理解する。	
2	中枢神経系障害の基礎解剖①	中枢神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能について理解する。		17	回復期の理学療法	回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
3	中枢神経系障害の基礎解剖②	辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。		18	回復期の理学療法	回復期理学療法の実際について理解する。	
4	中枢神経系障害の基礎解剖③	間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。		19	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
5	中枢神経系障害の基礎解剖④	脳血管・脳脊髄液について理解する。		20	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期理学療法の実際について理解する。	
6	中枢神経系障害の基礎解剖⑤	伝導路（上行路と下行路）の構造と機能について理解する。		21	中枢神経系障害の理学療法について	急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する	
7	脳梗塞の病態	脳梗塞の概要、分類（機序・臨床病型・病変部位からの分類）について理解する。		22	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作）	
8	脳出血の病態	脳出血の概要、各出血（被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血）の病態について理解する。		23	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢）	
9	脳梗塞・脳出血の画像診断	脳梗塞・脳出血の画像診断について理解する。		24	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （車椅子シーティング・移乗動作）	
10	くも膜下出血の診断と治療	くも膜下出血の疫学、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。		25	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （歩行・階段昇降・応用歩行）	
11	脳腫瘍の診断と治療	脳腫瘍の疫学、画像、診断、検査、治療について理解する。		26	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作）	
12	脳血管障害と脳腫瘍の病態まとめ	脳血管障害と脳腫瘍の病態についてまとめる。		27	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 （食事動作・嚥下障害）	
13	中枢神経系障害の理学療法各論	脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。		28	その他の理学療法について	上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。	
14	中枢神経系障害の理学療法各論	中枢神経系障害の評価を理解する。		29	その他の理学療法について	痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。	
15	急性期の理学療法	急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。		30	ADL指導・その他の理学療法について	中枢神経系障害のADL指導および、その他の理学療法についてまとめる。	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
	病気が見える7（脳・神経）			医療情報科学研究所		Medic Media	2017年
	ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション			潮見 泰藏		羊土社	2017年
参考図書等	脳卒中理学療法の理論と技術			原寛美、吉尾雅春		MEDICAL VIEW	2013年
	PT・OTのための画像のみかた			山下 敏彦 監修		金原出版	2016年
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかりと復習すること。						

講義科目		中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ				授業時間数	60
担当講師		渡邊 一也			単位数	2	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	急性期病院で8年、回復期で6年の実務経験あり。		
教育目標		中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について		16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。	
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断（脳葉の区分と溝・病巣）について		17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。		18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。		19	運動失調症の病態について①	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。	
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。		20	運動失調症の病態について②	運動失調の症状の特徴について理解する（片麻痺との違い）。	
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。		21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する。	
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。		22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。	
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。		23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。	
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。		24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。		25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。	
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷（頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷）の病態について理解する。		26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。		27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。		28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。	
14	パーキンソン病の病態について	パーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。		29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。	
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。（Hoehn-Yahrの重症度分類）		30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション		潮見 泰藏		羊土社		
参考図書等	病気が見える7（脳・神経）		医療情報科学研究所		Medic Media		
	高次脳機能障害学		石合 純夫		医歯薬出版		
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		川平和美		医学書院		
	PT・OTのための画像のみかた		山下 敏彦 監修		金原出版		
	日常生活活動（ADL）		千住 秀明		神陵文庫		
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。						

講義科目		運動器疾患の理学療法学 I					
担当講師		渡邊 一也			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	急性期病院で8年、回復期で6年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	骨関節、外傷総論	骨折・脱臼・捻挫・靭帯損傷・創傷及び褥瘡について理解する		16	肩関節疾患②	変形性肩関節症の病態、治療、理学療法を理解する。	
2	高齢者と小児の骨折	①高齢者の身体特性、骨粗鬆症および骨折の特徴を理解する ②サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイルについて理解する ③小児の身体特性と骨折の特徴を理解する		17	スポーツ傷害①	上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
3	下肢の骨折①	股関節脱臼、骨盤骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		18	スポーツ傷害②	上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
4	下肢の骨折②	大腿骨近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		19	スポーツ傷害③	下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
5	下肢の骨折③	大腿骨骨幹部骨折、大腿骨遠位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		20	スポーツ傷害④	下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
6	下肢の骨折④	膝蓋骨骨折、脛骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		21	スポーツ傷害⑤	その他スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
7	下肢の骨折⑤	足関節骨折、踵骨骨折、距骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		22	スポーツ傷害⑥	上肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
8	下肢の骨折まとめ	各下肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		23	スポーツ傷害⑦	下肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
9	上肢の骨折①	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		24	スポーツ傷害まとめ	各スポーツ傷害の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
10	上肢の骨折②	上腕骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		25	変形性関節症（膝関節①）	変形性膝関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
11	上肢の骨折③	肘関節脱臼、前腕近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		26	変形性関節症（膝関節②）	人工膝関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
12	上肢の骨折④	前腕骨幹部骨折、橈骨遠位端骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		27	変形性関節症（股関節①）	変形性股関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
13	上肢の骨折⑤	手の骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		28	変形性関節症（股関節②）	人工股関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
14	上肢の骨折まとめ	各上肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		29	変形性関節症まとめ	下肢変形性関節症の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
15	肩関節疾患①	肩関節疾患の病態、治療、理学療法を理解する。		30	骨端症	骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	整形外科ビジュアルリハビリテーション		稲川 利光		学研メディカル秀潤社		
参考図書等	PT・OTのための画像のみかた		山下 敏彦 監修		金原出版		
	標準整形外科学		松野丈夫		医学書院		
	運動器障害理学療法学テキスト		細田多穂		南江堂		
授業方法	講義および実技を用いたグループワークを行う 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。						

講義科目	運動器疾患の理学療法学Ⅱ						
担当講師	木村 公治				授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院で19年の実務経験あり。	単位数	2	
教育目標	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。						
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	疼痛疾患	①疼痛のメカニズムおよび急性痛・慢性痛・がん性疼痛を理解する。②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する。		16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法プログラムを理解する	
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する		17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する	
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する		18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する	
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する		19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する	
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する		20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する	
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する		21	脊髄損傷③	①合併症を理解する	
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。		22	脊髄損傷④	①評価（Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA）を理解する	
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する (橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺)		23	脊髄損傷⑤	①頸髄損傷について理解する	
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する (坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺、脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺)		24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する	
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法プログラムを理解する		25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する	
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する		26	脊髄損傷⑧	①頸髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する		27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する		28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する	
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法プログラムを理解する		29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する	
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する		30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	整形外科ビジュアルリハビリテーション		稲川 利光		学研メディカル秀潤社		
脊髄損傷の理学療法		武田 功		医歯薬出版			
参考図書等	運動器障害理学療法学テキスト		細田多穂		南江堂		
	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション		田中宏太佳・園田茂		医学書院		
	標準整形外科学		内田淳正		医学書院		
授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。						

講義科目		内部障害系疾患の理学療法学 I					
担当講師		福田 倫大			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	急性期病院で5年、回復期病院で5年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	内部障害の理学療法とは	①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。		16	虚血性心疾患の病態、診断、治療	①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。	
2	代謝と栄養	①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。		17	心不全の病態、診断、治療	①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。	
3	メタボリックシンドロームの理学療法 ①	①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。		18	心臓リハビリテーション総論	①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。	
4	メタボリックシンドロームの理学療法 ②	②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。		19	循環器疾患の理学療法評価 ①	①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。	
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療	①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。		20	循環器疾患の理学療法評価 ②	②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。	
6	糖尿病の合併症と治療	①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。		21	循環器疾患の理学療法評価 ③	④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。	
7	糖尿病の理学療法 ①	①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。		22	循環器疾患の理学療法 ①	①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。	
8	糖尿病の理学療法 ②	③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。		23	循環器疾患の理学療法 ②	②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。	
9	循環器系の解剖学・生理学	①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。		24	循環器疾患の理学療法 ③	③不良反応が出現した際に適切な処置ができる。	
10	運動耐容能とその評価 ①	①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。		25	大動脈疾患の病態と理学療法	①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。	
11	運動耐容能とその評価 ②	③運動耐容能を評価する。 ④運動処方の実際を理解する。		26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法	①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。	
12	心電図の診かた ①	①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。		27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法	①末梢動脈・静脈・リンパ系の代表的疾患(ASO・DVT・リンパ浮腫：子宮がん・乳がん)の病態と理学療法を理解する。	
13	心電図の診かた ②	④モニター心電図を理解する。 ⑤ホルター心電図を理解する。 ⑥心電図と循環との関係を知る。		28	腎疾患の病態、検査	①腎疾患の病態、治療を理解する。	
14	不整脈の診かた ①	①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。		29	腎疾患の治療、理学療法	②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。	
15	不整脈の診かた ②	①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。		30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ	①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がい者の理学療法をまとめる。	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝			石川 朗		中山書店	
内部障害理学療法テキスト			細田 多穂		南江堂		
参考図書等	病気が見える 循環器疾患			岡庭 豊		MEDIC MEDIA	
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環			高橋 仁美		中山書店	
	心電図のABC			五島 雄一郎		日本医師会	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。						

講義科目		内部系障害の理学療法学Ⅱ					
担当講師		秋山 美佳			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療学科	2年後期	実務経験	理学療法士として、回復期で5年、在宅分野で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	呼吸理学療法総論	運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。		16	呼吸器疾患の理学療法基本手技④	徒手的な呼吸助手技の実施を経験する(バックコントロールを含む)。	
2	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。		17	酸素療法と呼吸理学療法	酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。	
3	呼吸器系の運動学	呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。		18	人工呼吸療法と呼吸理学療法	人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。	
4	呼吸器系の生理学	呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。		19	急性・慢性呼吸不全の理学療法	急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、胸腹部外科術後（肺・消化器がん等）の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。	
5	動脈血液ガス検査	動脈血ガスの目的、意義、基準値、動脈血酸素化能、換気能の指標を理解する。		20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法	慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。	
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。		21	吸引の概念と理論	吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。	
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査	代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。		22	吸引演習	吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。	
8	呼吸器疾患の理学療法評価①	肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。		23	呼吸器疾患の解釈と統合①	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
9	呼吸器疾患の理学療法評価②	医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。		24	呼吸器疾患の解釈と統合②	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
10	呼吸器疾患の理学療法評価③	運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。		25	呼吸器疾患の解釈と統合③	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
11	呼吸器系の運動生理学①	運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。		26	呼吸器疾患の解釈と統合④	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
12	呼吸器系の運動生理学②	運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。		27	呼吸器疾患の解釈と統合⑤	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技①	コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。		28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ	悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。	
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技②	運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。		29	悪性腫瘍の治療(緩和ケア含む)と理学療法	手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。	
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技③	呼吸助助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。		30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ	呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 呼吸			玉木 彰		中山書店	
内部障害理学療法テキスト			細田 多穂		南江堂		
参考図書等	標準理学療法学 内部障害理学療法学			吉尾 雅春、高橋 哲也		医学書院	
	動画でわかる 呼吸リハビリテーション			高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信		中山書店	
	リハビリテーションビジュアルブック			落合慈之、稲川利光		学研	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。						

講義科目	小児疾患の理学療法学					
担当講師	木村 公治				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学 2年後期	実務経験	急性期病院で19年の実務経験あり。	単位数	1
教育目標	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する					
No.	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	正常運動発達		背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する			
2	発達・運動発達の評価		発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する			
3	正常姿勢反射の発達		中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する			
4	脳性麻痺の概論		療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する			
5	痙直型両麻痺の概要		痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達 について理解する			
6	痙直型両麻痺の理学療法		痙直型両麻痺の評価・理学療法 について理解する			
7	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法		痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 について理解する			
8	アテトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法		アテトーゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する			
9	脳性麻痺のまとめ		国家試験問題を解き、脳性麻痺に対する理解度を深める			
10	子どもの遺伝性疾患の概要		Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する			
11	子どもの遺伝性疾患の理学療法		Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する			
12	子どもの整形外科疾患（二分脊椎・ペルテス病など）		二分脊椎・ペルテス病・发育性股関節形成不全について理解する			
13	ダウン症の病態と理学療法		ダウン症の運動発達と理学療法について理解する			
14	発達障害について		発達障害の特徴と支援について理解する			
15	その他の疾患・まとめ		その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する 国家試験について知識を深める			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト		細田 多穂 監修		南江堂	
参考 図書等	写真で見る乳児の運動発達		Lois Bly (著), 木本 孝子, 中村 勇		協同医書出版	
	PTマニュアル 小児の理学療法		河村 光俊 (著)		医歯薬出版	
	イラストでわかる 小児理学療法学		上杉 雅之		医歯薬出版	
授業 方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。					

講義科目	理学療法学技術演習 I					
担当講師	佐々木 圭太				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	急性期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)	No.	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。	16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
2	疾患理解 1	大腿骨頸部骨折の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。	17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。	18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。	19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。	20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。	
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
11	評価項目の選択 1 演習	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。	26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。	27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。	
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。	
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。	30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
教科書	書籍名		著者			
参考図書等						
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点		
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像についても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目		理学療法学技術演習Ⅱ					
担当講師		佐々木 圭太			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	急性期病院で8年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。		16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
2	疾患理解 1	脳血管疾患の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。		17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。		18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。	
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。		19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。		20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。	
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。	
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。	
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
11	評価項目の選択 1 演習	脳血管疾患の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。		26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。	
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。		27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。	
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。	
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。		30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
参考図書等							
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点		
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像についても他科目と並行して理解に努めること。						

講義科目	理学療法学総合学習Ⅰ				
担当講師	理学療法学科教員		授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 3年前期	単位数	2	
教育目標	①臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション ①	①国家試験に合格するために必要な知識・技術を確認する ②国家試験の概要と学習方法を理解する ③学習計画を作成する	16	中枢系分野⑥ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	オリエンテーション ②		17	中枢系分野⑦ 思考過程の統合	
3	評価学分野① 基礎知識の整理		18	中枢系分野⑧ 思考過程の統合	
4	評価学分野② 基礎知識の整理		19	中枢系分野⑨ 思考過程の統合	
5	評価学分野③ 基礎知識の整理		20	中枢系分野⑩ 思考過程の統合	
6	評価学分野④ 基礎知識の整理		21	運動器系分野① 基礎知識の整理	
7	評価学分野⑤ 思考過程の統合		22	運動器系分野② 基礎知識の整理	
8	評価学分野⑥ 思考過程の統合		23	運動器系分野③ 基礎知識の整理	
9	評価学分野⑦ 思考過程の統合		24	運動器系分野④ 基礎知識の整理	
10	評価学分野⑧ 思考過程の統合		25	運動器系分野⑤ 基礎知識の整理	
11	中枢系分野① 基礎知識の整理		26	運動器系分野⑥ 思考過程の統合	
12	中枢系分野② 基礎知識の整理		27	運動器系分野⑦ 思考過程の統合	
13	中枢系分野③ 基礎知識の整理		28	運動器系分野⑧ 思考過程の統合	
14	中枢系分野④ 基礎知識の整理		29	運動器系分野⑨ 思考過程の統合	
15	中枢系分野⑤ 基礎知識の整理		30	運動器系分野⑩ 思考過程の統合	
教科書	書籍名		著者		出版社
参考図書等	随時提示を行う				
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。（定期試験はマークシート形式）	
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。				

講義科目		理学療法学総合学習Ⅱ					
担当講師		理学療法学科教員		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース	理学療法学科 3年前期		単位数	2	
教育目標		①臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	内部系分野① 基礎知識の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る		16	小児・発達系分野⑥ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	
2	内部系分野② 基礎知識の整理			17	小児・発達系分野⑦ 思考過程の統合		
3	内部系分野③ 基礎知識の整理			18	小児・発達系分野⑧ 思考過程の統合		
4	内部系分野④ 基礎知識の整理			19	小児・発達系分野⑨ 思考過程の統合		
5	内部系分野⑤ 基礎知識の整理			20	小児・発達系分野⑩ 思考過程の統合		
6	内部系分野⑥ 思考過程の統合			21	心理・精神系分野① 基礎知識の整理		
7	内部系分野⑦ 思考過程の統合			22	心理・精神系分野② 基礎知識の整理		
8	内部系分野⑧ 思考過程の統合			23	心理・精神系分野③ 基礎知識の整理		
9	内部系分野⑨ 思考過程の統合			24	心理・精神系分野④ 基礎知識の整理		
10	内部系分野⑩ 思考過程の統合			25	心理・精神系分野⑤ 基礎知識の整理		
11	小児・発達系分野① 基礎知識の整理			26	心理・精神系分野⑥ 思考過程の統合		
12	小児・発達系分野② 基礎知識の整理			27	心理・精神系分野⑦ 思考過程の統合		
13	小児・発達系分野③ 基礎知識の整理			28	心理・精神系分野⑧ 思考過程の統合		
14	小児・発達系分野④ 基礎知識の整理			29	心理・精神系分野⑨ 思考過程の統合		
15	小児・発達系分野⑤ 基礎知識の整理			30	心理・精神系分野⑩ 思考過程の統合		
教科書	書籍名		著者		出版社		
	指定なし						
参考図書等	随時提示を行う						
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。（定期試験はマークシート形式）			
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。						

講義科目	理学療法学総合学習Ⅲ				
担当講師	理学療法学科教員		授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 3年後期	単位数	2	
教育目標	①臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	知識の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	16	思考過程の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	知識の統合		17	思考過程の整理	
3	知識の統合		18	思考過程の整理	
4	知識の統合		19	思考過程の整理	
5	知識の統合		20	思考過程の整理	
6	知識の統合		21	思考過程の整理合	
7	知識の統合		22	思考過程の整理	
8	知識の統合		23	思考過程の整理	
9	知識の統合		24	思考過程の整理	
10	知識の統合		25	思考過程の整理	
11	知識の統合		26	思考過程の整理	
12	知識の統合		27	思考過程の整理	
13	知識の統合		28	思考過程の整理	
14	知識の統合		29	思考過程の整理	
15	知識の統合		30	思考過程の整理	
教科書	書籍名		著者		出版社
参考図書等	随時提示を行う				
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。（定期試験はマークシート形式）	
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。				

講義科目	生活環境学					
担当講師	秋山 美佳			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	理学療法士として、回復期で5年、在宅分野で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	生活環境学とは	ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。				
2	法的・制度的環境	社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。				
3	関連制度	ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。				
4	生活とROM、日常生活上の注意点	①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。				
5	住環境整備の流れ、対策について	住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。				
6	住環境整備の流れ、対策について	段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。				
7	部屋別アプローチ①	アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。				
8	部屋別アプローチ②	脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。				
9	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
10	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。				
11	介護保険と住環境整備	介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。				
12	障害別住宅改修について	①脳卒中患者の住環境整備について ②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について				
13	事例検討①	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。				
14	事例検討②	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。				
15	まとめ	まとめ				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキストX 生活環境論		千住 秀明 監修		神陵文庫	
参考図書等	OT・PTのための住環境整備論 第3版		野村 歡 監修		三輪書店	
	南江堂 生活環境学テキスト		細田多穂 監修		南江堂	
授業方法	講義、演習、グループワークを実施。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。					

講義科目		地域理学療法学演習					
担当講師		山崎 圭			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院で4年、生活期で1年、老人福祉施設で1年の実務経験あり。	単位数	2
教育目標		1. 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 3. 地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。					
2	地域理学療法概念	①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネジメントの重要性を理解する。					
3	地域理学療法の関連法規 ① 医療保険制度	①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。					
4	地域理学療法の関連法規 ② 障害者総合支援法	①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。					
5	地域理学療法の関連法規 ③ 介護保険制度	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。					
6	地域理学療法の実際① 入所・通所施設における理学療法	①入所施設における理学療法について説明できる。 ②通所施設における理学療法について説明できる。					
7	地域理学療法の実際② 訪問における理学療法	①訪問における理学療法について説明できる。 ②福祉用具および住宅改修の活用方法を説明できる。					
8	地域理学療法の実際③ 地域包括ケアにおける理学療法	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法士の役割を知る。					
9	地域理学療法の実際④ 介護予防における理学療法	①NCD(認知症)予防、転倒予防の実際を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。					
10	健康維持・増進における理学療法 学校保健および特別支援教育における理学療法	①健康維持・増進における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。②学校保健および特別支援教育における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。					
11	スポーツ活動支援における理学療法	①スポーツ理学療法の概要と考え方について理解できる。 ②スポーツ活動支援における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。 ③障がい者スポーツ支援の概要と考え方について理解できる。 ④障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について理解できる。					
12	緩和ケア・終末期医療における理学療法	①緩和ケア・終末期医療における理学療法士の役割について理解できる。 ②緩和ケア・終末期医療における理学療法について理解できる。					
13	災害時の理学療法 国際支援における理学療法 産業理学療法	①大規模災害時における活動支援の概要および理学療法士の役割について理解できる。 ②国際支援における理学療法士の役割および関わる基盤について理解できる。 ③産業理学療法における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。					
14	事例検討	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的方法を理解する。					
15	地域で働く理学療法士に必要な資質（まとめ）	①他職種連携の重要性を知る。 ②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。 ④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	地域リハビリテーション学		重森 健太 編		羊土社		
参考 図書等	地域リハビリテーション論		太田 仁史 編		三輪書店		
	地域リハビリテーション学テキスト		備酒伸彦 他編		南江堂		
	予防と産業の理学療法		樋口由美 他編		南江堂		
授業 方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験（60%） 発表、レポート（40%）			
履修上の 注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。						

講義科目	臨床実習 I (病院見学実習)		
担当講師	臨床実習指導者および理学療法学科教員		授業時間数 45
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 1
教育目標	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。		
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)	
<p>【見学の概要】</p> <p>チーム医療について学び、リハビリテーションの専門職としての知識・技術の重要性・必要性を確認することで、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解し、職業人として望ましい行動や態度を取ることができるように注意して行動する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。</p> <p>教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標 (認知領域) チーム医療について理解する。 (認知領域) チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を理解する。 (認知領域) チーム医療における他専門職の立場と役割を理解する。 (認知領域) 病院で働く理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを理解する。 (運動領域) 対象者との関係性構築に務める。</p> <p>教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患の症状・現象について見学し、自分の考えを他者に伝える。 (運動領域) 必要に応じてメモに書き留めることができる。</p> <p>教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標 (情意領域) 実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域) 医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域) 状況に即した言動を取ることができる。 (認知領域) 代表的な疾患に対する評価や治療を見学して、自身の考えを他者に伝える。 (認知領域) 理学療法及び作業療法の一連の流れを理解する。 (運動領域) 必要に応じてメモを書き留めることができる。</p>			
教科書	書籍名	著者	出版社
	特に指定しない		
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ	鶴見隆正 編集	医学書院
授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。		

講義科目	臨床実習Ⅱ（地域実習）		
担当講師	臨床実習指導者および理学療法学科教員		授業時間数 45
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数 1
教育目標	① 地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ② 実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③ 学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④ 実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。		
講義計画（講義内容を含む）			
<p>【地域実習の概要】</p> <p>地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成すること、及び生活期で実施されるリハビリテーション（主に訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション）の業務に関わりながら、それらの一部を体験・経験することを目的に地域実習を行う。地域実習では、1年次から2年後期までに学習した、理学療法・作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識を基に、実習施設において実習指導者の指導・監督の下、理学療法・作業療法業務の見学や一部の業務について補助的に関わることを体験する。この体験を通して、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムにおける理学療法士・作業療法士の責任と自覚を培う。</p> <p>教育目標①「地域包括ケアシステムにおける施設の役割を理解し説明できる。」に対する行動目標 （認知領域）地域包括ケアシステムが構築された背景を説明できる。 （認知領域）地域包括ケアシステムの目的を説明できる。 （認知領域）地域包括ケアシステムにおける通所又は訪問リハビリテーションの役割を説明できる。</p> <p>教育目標②「実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。」に対する行動目標 （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している理学療法士・作業療法士の役割を説明できる。 （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している他専門職の役割を説明できる。</p> <p>教育目標③「学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。」に対する行動目標 （情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 （情意領域）提出物を期限内に提出することができる。 （情意領域）学校および施設の規則やスケジュールに従って行動することができる。 （情意領域）実習指導者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 （情意領域）他専門職と関わり、良好な関係を構築・維持できる。 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、感染対策を意識した行動がとれる。</p> <p>教育目標④「実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。」に対する行動目標 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、対象者に対し相応しい態度や対応がとれる。 （情意領域）対象者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 （精神運動領域）対象者の一般的情報をカルテ等から収集し、問題点や目標について実習指導者へ考えを述べるすることができる。 （精神運動領域）学内で学んだ知識・技術を活かし、実習指導者の管理下のもと一部の業務が補助できる。</p>			
教科書	書籍名	著者	出版社
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ	鶴見隆正 編集	医学書院
授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。		

講義科目	臨床実習Ⅲ（評価実習）		
担当講師	臨床実習指導者および理学療法学科教員		授業時間数 360
開講年次	昼間コース	理学療法学科 3年前期	単位数 8
教育目標	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる		
講義計画（講義内容を含む）			
<p>【評価実習の概要】 実習施設の理学療法・作業療法診療に参加し、臨床実習教育者からの指導を通じて、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。 また、臨床教育者の指導のもとに情報収集や観察、対象者に適した評価を見学から模倣、実施を経験することで学内で学んだ知識と実技を統合する。</p> <p>【行動目標】 ①理学療法士・作業療法士としての基本的資質を習得する ②医療従事者として思慮深く考え、責任ある言動をとることができる ③学内で学んだ原理知識を臨床場面で活かすことができる ④問題意識をもって知識を深めることができる ⑤臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な検査・測定、評価を理解できる ⑥臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な介入技術を理解できる ⑦検査・測定、評価、介入技術において必要な準備ができ、リスク管理について理解できる</p>			
教科書	書籍名	著者	出版社
参考 図書等			
授業 方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う	成績評価方法	・情意領域 ・認知チェックリスト ・経験チェックリスト より評定する。
履修上の 注意	別途実習の手引きを把握して臨むこと 臨床実習施設の規定を遵守すること		

講義科目	臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）		
担当講師	臨床実習指導者および理学療法学科教員		授業時間数 450
開講年次	昼間コース	理学療法学科 3年前期	単位数 10
教育目標	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる		
講義計画（講義内容を含む）			
<p>【総合実習の概要】</p> <p>臨床実習Ⅳは、総合臨床実習の位置付けで、実習前評価・臨床実習・実習後評価で構成している。 実習前評価は、感染症対策および医療安全管理・個人情報保護の重要性を学習する。 また、実習前の準備として、医療面接および評価・治療・技術および基本的臨床技能を確認するために、学内で知識評価と実技試験を診断的評価として実施する。</p> <p>実習施設では、診療参加型実習として臨床実習教育者からの指導を通して、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。また、臨床実習教育者の指導の下、情報収集や観察・対象者に適した評価の見学、模倣、実施を通して経験を積み上げていく。また、得られた検査結果の解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。</p> <p>実習後評価は、実習施設で経験した内容をもとに、自己の思考をまとめて、臨床実習経験報告会という機会を設けて、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>【実習前後評価の概要】</p> <p>実習前評価 臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)前に、実習に臨む学生の情意領域、認知領域、精神運動領域について、学生の準備状態を把握し、実習施設での指導計画を立案するために行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情意領域...学校生活の状況 ・認知領域...知識試験の実施 ・精神運動領域...技能試験(OCSE)の実施 <p>実習後評価 臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)終了後に、実習生の学習を総括的に評価するために行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習経験報告会の実施 <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①臨床実習Ⅲの目的を基底とする ②臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、仮設の立案・立証ができる ③臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、得られた結果について解釈し、優先性を踏まえて統合することができる ④臨床実習教育者の指導の下、対象者の生活像を想定した目標を設定し、整合性のある治療介入プログラムを立案できる 			
教科書	書籍名	著者	出版社
参考図書等	関連図書や文献を適宜用いること		
授業方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う	成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・情意領域 ・認知チェックリスト ・経験チェックリスト ・経験報告会 を全て総括して評定する
履修上の注意	別途実習の手引きを把握して対応すること 臨床実習施設の規定を遵守すること		